

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	ライブ・エンタテインメント1	
科目基礎情報							
開設学科	音響芸術科		コース名	全専攻		開設期	前期
対象年次	1年次		科目区分	必修		時間数	30時間
単位数	2単位		授業形態	講義			
教科書/教材	授業内で資料プリントを配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。						
担当教員情報							
担当教員	三好敏之			実務経験の有無・職種	有・レコーディングエンジニア		
学習目的							
前期においては舞台機構技能の受験にかかわらず、舞台機構技能検定3級相当の内容を中心に学習する。音響用語との解説を中心に演劇用語、舞台設備、コンサートなどの音響技術全般、各種楽器の仕組みと音色の把握ができるようになることが主な目的となる。近年の音響エンジニアはレコーディングエンジニアとして仕事以外にもアーティストの担当として、ライブにおいても音響のアドバイザーとしての仕事を務める事もあり、幅広い知識を獲得しておくことも重要である。							
到達目標							
音響のエンジニアとして様々なイベントへの関わりを持てる知識を得ることが目標である。近年ではCDの売り上げ低下に反してライブ・イベントの動員数は増加傾向にあり、音のプロフェッショナルとしてそうしたイベントに積極的に関わっていく事も重要である。例えレコーディングエンジニアのみの職業であっても、イベント時のアーティストの音やパフォーマンスに対して知識を得ることにより、より深い音作りへの貢献ができるようになる。							
教育方法等							
授業概要	基本はプリント資料を適時配布し、自分で完成させるワークタイプのプリントを配布することもある。講義形式の授業である。前回までの各項目を理解した上での次項目へ繋がるため、復習も随時行いながら進行する。復習や仮説においては各自の発言機会もあるので、積極的な参加が望ましい。映像、音響資料も多用するので、音の聞き分けができる心構えも必要である。						
注意点	音を扱うプロとしてノイズと捉えられる授業中の私語や受講態度などには厳しく対処する。 公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。 授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	40%	試験と課題を総合的に評価する				
	小テスト	30%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	レポート	0%					
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表、内容について評価する				
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	コンサートとライブ・スタッフ			様々なスタッフの仕事と役割がわかる。			
2回	舞台機構調整技能士とは？			合格に必要な知識の概要がわかる。			
3回	舞台の種類、舞台設備、用語1			様々な舞台の形式についてわかる。			
4回	舞台の種類、舞台設備、用語2			舞台用語全般について、意味がわかる。			
5回	舞台関連基礎Ⅰ 舞台設備			舞台の仕組みと用語がわかる。			
6回	舞台関連基礎Ⅱ バトン、吊り物			バトンの種類がわかる。			
7回	舞台関連基礎Ⅲ 照明			舞台照明の用後と種類についてわかる。			
8回	音響家の基礎知識Ⅰ 音について			舞台音響についての知識がわかる。			
9回	音響家の基礎知識Ⅱ 楽器1			楽器の分類、音色の聞き分けができるようになる。			
10回	音響家の基礎知識Ⅲ 楽器2			楽器の分類、音色の聞き分けができるようになる。			
11回	舞台機構模擬試験			これまでの復習と舞台機構技能の模擬試験。			
12回	シンプルなPAオペレート			舞台機構技能の実技内容を確認できる。			
13回	舞台・音響の為の電気基礎			電源の種類と取り方がわかる。			
14回	安全管理と法令（消防法など）			舞台に関する法令と届け出についてわかる。			
15回	前期まとめ			上記内容の復習。			